

# カリキュラム

機構施設名：北海道職業能力開発促進センター

実施機関名：株式会社フレックスジャパン

(D)IT業務改善-データ活用	表計算ソフトのマクロによる定型業務の自動化
表計算ソフト活用	

コースのねらい	表計算ソフトを活用する際、業務効率を向上させるために必要となる定型業務の自動化を実現するためのマクロの作成手法を習得する。
---------	---

指導内容	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間 (H)
	1 マクロの基本知識	(1)マクロ記録[演習] ・マクロ機能を用いることで何ができるのか、効率性・正確性の両面からメリットを解説します。 ・マクロ記録を行う上での注意点を確認し、実践練習を行います。  (2)VBAとは ・処理する内容によってはマクロ機能だけでは対応できないケースがあることを解説します。 ・マクロ機能の限界を確認し、より多くの場面で自動化・効率化を実現できるVBAを用いることのメリットを解説します。  (3)プログラム開発環境 ・VBEの画面構成を確認し、プログラムコードの入力方法、実行操作、コメントの記述方法を学習します。  (4)プログラミング作業の流れ ・例題を通してプログラムを構築する際の考え方を身につけます。 ・入力する際の注意点、エラー対処方法を学習します。	4.0
	2 基本文法	(1)プロシージャ、モジュール[演習] ・構文例を用いて、モジュールの概要とプロシージャの構成要素(オブジェクト、プロパティ、メソッド)について学習します。 ・構成要素の学習を通してステートメントの記述方法を理解し、一連の作業を行うプロシージャの作成方法を習得します。  (2)プロパティ、メソッド[演習] ・マクロ機能を活用し、分からないプロパティやメソッドの調べ方を身につけます。  (3)オブジェクト[演習] ・計算式による演算、オブジェクトへの代入方法を学習する。 ・変数を利用することによる可読性の違いや修正の簡便さを確認し、例題を通して活用方法を習得します。	4.0
	3 制御文法	(1)条件分岐処理[演習] ・例題を用いて、条件分岐処理の作成方法を学習します。 ・If～Then、Select～Caseの特徴を学習し、意図した通りの条件判断を作成できるよう、実践演習を通して分岐処理を組み立てる際の考え方を学習します。  (2)繰り返し処理[演習] ・例を用いて、繰り返し処理を行うことのメリットを確認します。 ・For～Nextステートメントの使い方を学習し、可読性にも優れた効率的なプログラム構築方法を習得します。  (3)ブックの操作[演習] ・ブック間を跨ぐ処理において前提として知っておくべきディレクトリの知識を習得します。 ・ブックを開く、閉じる、保存するなどのブックを操作する方法を確認し、ブック間を跨いだ処理方法を習得します。	4.0
合計時間			12.0

**カリキュラム作成のポイント** ※訓練当日の進行はカリキュラムに記載されている順番と異なる場合があります。

弊社の取引先や研修実施企業にヒアリングした結果、表計算ソフトを用いてデータを転記入力する業務を行っている企業が多く、作業を自動化する技能を習得したいとの要望が多く寄せられています。データを転記する処理はVBAの基礎的な知識を身につけることで実現でき、これを身につけることで自社における業務効率化を図ることができます。また、プログラムを構築する際に想定すべき事柄や想定外のエラーが発生した時のデバッグ作業のポイント、ブックを跨ぐ処理を行う際の注意事項について学習し、実際に弊社取引先より頂いた相談事例を基にした演習課題を用いて自分でプログラムを組み立てる際の考え方を習得する訓練内容としました。